

4. 調査結果

4.1 調査ボーリング結果

調査ボーリングは、建物計画位置の 12 地点で実施した。表 4.1.1 に調査地点の概要をまとめた。

表 4.1.1 ボーリング調査地点概要

調査地点	孔口標高 (GH= m)	総掘進長 (m)	備 考
No. 1	115.135	32.00	孔内水平載荷試験
No. 2	115.272	30.00	シンウォールサンフ°リンク°（φ 86mm別孔）
No. 3	115.417	32.00	シンウォールサンフ°リンク°（φ 86mm別孔）
No. 4	115.450	31.00	孔内水平載荷試験
No. 5	115.315	30.00	シンウォールサンフ°リンク°（φ 86mm別孔）
No. 6	115.460	30.00	シンウォールサンフ°リンク°（φ 86mm別孔）
No. 7	115.606	30.00	
No. 8	115.630	29.00	
No. 9	115.124	31.00	孔内水平載荷試験、 シンウォールサンフ°リンク°（φ 86mm別孔）
No. 10	115.254	31.00	
No. 11	115.405	32.00	
No. 12	115.423	30.00	孔内水平載荷試験、 シンウォールサンフ°リンク°（φ 86mm別孔）

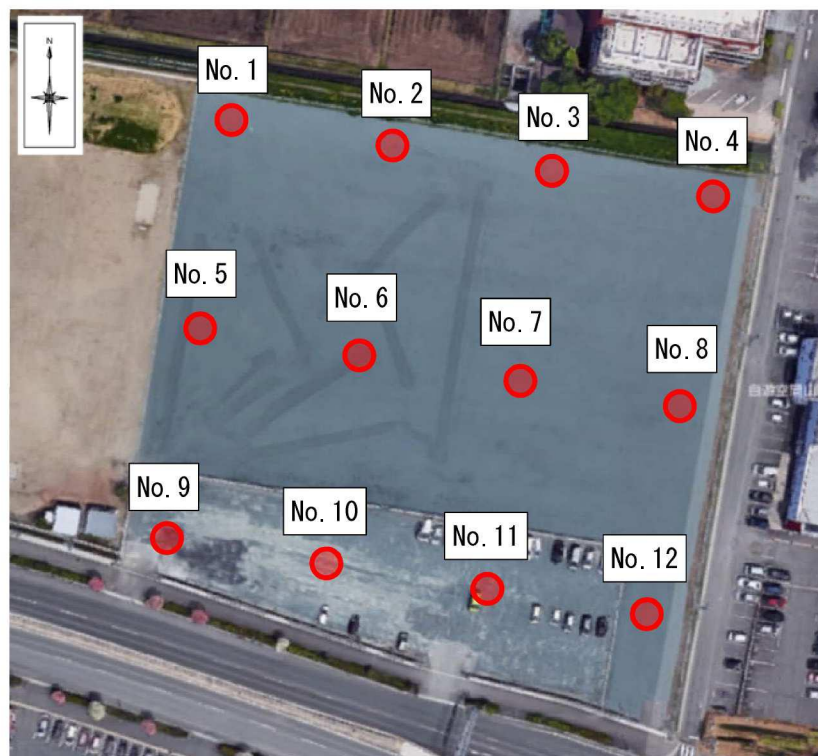


写真 4.1.1 ボーリング位置写真 (google map より引用)

ボーリング柱状図

調 査 名 山形市立南沼原小学校校舎改築に係る地質調査業務委託

[illegible]

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 1		調査位置		山形県山形市飯沢 地内				北 緯 38° 14' 22.5"	
発 注 機 関	山形市まちづくり		推進部 建築課		調査期間		平成 29年 10月 25日 ~ 29年 10月 27日		東 経 140° 18' 18.8"	
調 査 業 者 名	[redacted]		主任技師 [redacted]		現 場 代 理 人		コ ア 鑑 定 者 [redacted]		ボーリング 責 任 者 [redacted]	
孔 口 標 高	115.135m	角 180° 上 90° 下 0°	方 北 0° 270° 西 180° 南 東	地盤 勾配 鉛直 90° 水平 0°	使用 機種	東邦地下工機製 D1 型		ハンマー 落下用具	半自動落下方式	
総 掘 進 長	32.28m	度 0°	向 西 180° 南 東		エンジン	ヤンマー製 NFD-13-M		ポンプ	東邦地下工機製 BG-3 型	

標尺	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試験名 試験および結果	試験採取番号	採取方法	室内試験(掘進月日)	
											深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃回数／貫入量 (cm)	深 度 (m)	試験結果					
												0	10	20								
(m)	(m)	(m)	(m)																			
1	114.34	0.80	0.80		盛土(砂礫)	暗褐			深度0.10mまでグラウンドの砂よりなる。 深度0.10m以深は砂礫よりなる。 層中に有機物、砂分を含み不均質である。 粘性は小さく、層は硬い。	10/25 2.40	1.15	2	3	3	8	30	8					
2	113.64	0.70	1.50		砂質シルト	暗褐		硬い	砂粒子は不均一な細～粗砂を主体とする。 層中に礫径φ=10mm程度の礫を含む。 含水は中位である。	10/25 2.40	1.45	2	3	4	9	30	9					
3	112.84	0.80	2.30		礫混じり砂	褐				10/25 2.40	2.15	2	3	4	9	30	9					
4										10/25 2.40	2.45	7	8	9	24	30	24					
5					砂礫	青灰		中位～非常に密な	礫は花崗岩、安山岩、凝灰岩起源の亜円～亜角礫を主体とする。 平均礫径φ=10～30mm程度で、最大礫径φmax=80mm程度である。 基質は粗砂を主体とする。含水は中位である。	10/25 2.40	3.15	7	9	11	27	30	27					
6	108.74	4.10	6.40							10/25 2.40	3.45	7	9	11	27	30	27					
7	107.64	1.10	7.50		礫混じり砂	青灰		中位	砂粒子は不均一な細～粗砂を主体とする。 層中に礫径φ=2～5mm程度の細礫を含む。含水は少ない。	10/25 2.40	4.15	7	9	11	27	30	27					
8										10/25 2.40	4.45	8	10	10	28	30	28					
9					砂礫	青灰		密な～非常に密な	礫は花崗岩、安山岩、凝灰岩起源の亜円～亜角礫を主体とする。 平均礫径φ=10～30mm程度で、最大礫径φmax=50mm程度である。 基質は粗砂を主体とする。含水は多い。	10/25 2.40	5.45	14	46	60	60	120						
10	104.64	3.00	10.50							10/25 2.40	6.15	5		15	120							
11	103.79	0.85	11.35		砂質シルト	暗灰			層中に砂分を多く含み不均質である。 所々に有機物(木片)を含む。 粘性は小さく、層は硬い。 砂粒子は不均一な細～粗砂を主体とする。 含水は中位である。	10/25 2.40	6.30	6	6	9	21	30	21					
12	103.34	0.45	11.80		砂	暗灰			層中に有機物、砂分を含み不均質である。 粘性は小さく、層は硬い。	10/25 2.40	7.15	6	6	9	21	30	21					
13	102.34	1.00	12.80		砂混じりシルト	暗灰		硬い	砂粒子は不均一な細～粗砂を主体とする。 層中に礫径φ=10～30mm程度の礫を点状する。深度13m付近、礫分を多く含む。 所々にシルトの薄層を挟む。含水は中位である。	10/25 2.40	7.45	13	27	20	60							
14										10/25 2.40	8.15			5	25	72						
15					礫混じり砂	暗灰		中位～密な	砂粒子は不均一な細～粗砂を主体とする。 層中に礫径φ=10～30mm程度の礫を点状する。深度13m付近、礫分を多く含む。 所々にシルトの薄層を挟む。含水は中位である。	10/25 2.40	8.40	10	11	13	34	30	34					
16	98.84	3.50	16.30							10/25 2.40	9.15	10	11	13	34	30	34					
17	98.14	0.70	17.00		有機物混じり砂質シルト	暗褐			層中に砂分を多く含み不均質である。 所々に有機物(木片)を含む。 粘性は小さく、層は硬い。 砂粒子は不均一な細～粗砂を主体とする。 所々にシルト分を含む。含水は中位である。	10/25 2.40	10.15	14	21	21	56	30	56					
18	97.14	1.00	18.00		シルト混じり砂	暗青灰		中位	層中に砂分を多く含み不均質である。 所々に有機物(木片)を含む。 粘性は小さく、層は硬い。 砂粒子は不均一な細～粗砂を主体とする。 所々にシルト分を含む。含水は中位である。	10/25 2.40	10.45	4	5	13	22	30	22					
19	96.64	0.50	18.50		砂質シルト	暗灰		硬い	層中に砂分を多く含み不均質である。 所々に有機物(木片)を含む。 粘性は小さく、層は硬い。 砂粒子は不均一な細～粗砂を主体とする。 所々にシルト分を含む。含水は中位である。	10/25 2.40	11.15	4	5	13	22	30	22					
20	95.14	1.50	20.00		シルト混じり砂	暗灰		中位	層中に砂分を多く含み不均質である。 所々に有機物(木片)を含む。 粘性は小さく、層は硬い。 砂粒子は不均一な細～粗砂を主体とする。													

ボーリング柱状図

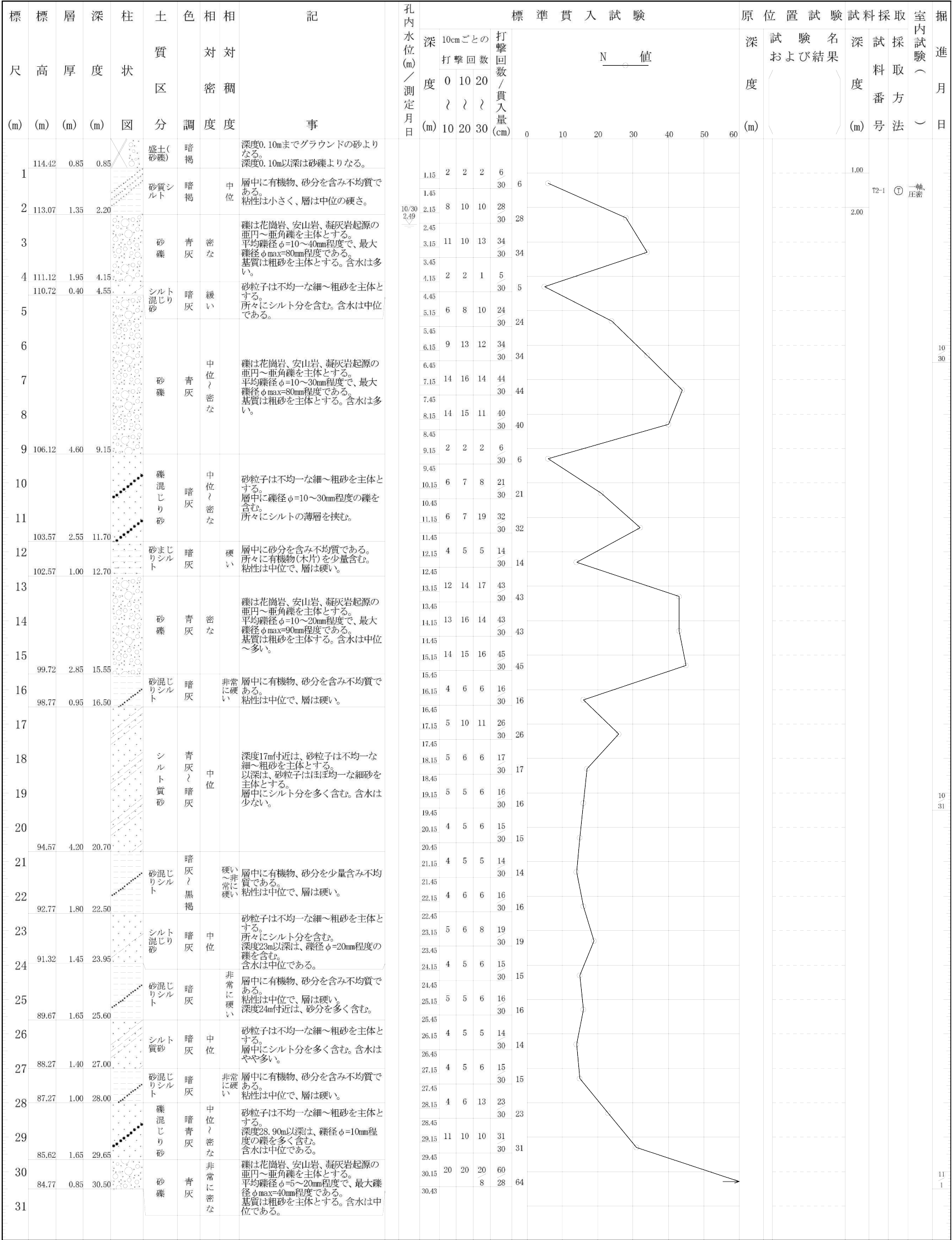
調査名 山形市立南沼原小学校校舎改築に係る地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 2		調査位置	山形県山形市飯沢 地内			北緯	38° 14' 22.4"		
発注機関	山形市まちづくり推進部 建築課				調査期間	平成 29年 10月 30日 ~ 29年 11月 1日		東経	140° 18' 20.1"	
調査業者名			主任技師			現場代理人	コ ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔口標高	115.272m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 180° 90° 東	地盤勾配	鉛直 0° 水平 0° 90°	使用機種	試錐機	東邦地下工機製 D1 型
総掘進長	30.50m	度	0°	向	0°	エンジン	ヤンマー製 NFD-13-M		ハンマー落下用具	半自動落下方式
							ポンプ		東邦地下工機製 BG-3 型	



ボーリング柱状図

調 査 名 山形市立南沼原小学校校舎改築に係る地質調査業務委託

[illegible]

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 3		調査位置		山形県山形市飯沢 地内					北緯38° 14' 22.2"	
発注機関	山形市まちづくり推進部建築課				調査期間 平成 29年 10月 19日 ~ 29年 10月 24日				東経140° 18' 21.5"		
調査業者名			主任技師				現場代理人	コ鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	115.417m	角	180° 上	方	北 0° 270° 西 90° 東	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	東邦地下工機製 D1-C 型	ハンマー落下用具	半自動落下方式
総掘進長	32.50m	度	下 0° 0°	向	180° 南	エンジン	ヤンマー製 NFD-13-M		ポンプ	東邦地下工機製 BG-3 型	

[illegible]

